

第145回 東葛しぜん観察会

早春の長田谷津を訪ねる

山口正明（船橋市）

日 時：2018年3月4日（日）9:30～12:00 天気：快晴

場 所：大町自然観察園（市川市）

参加者：一般 19名（内 子ども 4名）、指導員 19名

担当指導員：高橋 節、米澤裕子、山口正明

一週間前の下見の際は寒くて手がかじかみましたが、本番の日は暖かく快晴で絶好の天候。今回は、東葛地域だけでなく、千葉市や木更津市在住の方が参加してくれました。木更津市の方は、新聞掲載の行事案内をご覧になったとのこと。小学生が4名いたので、その親子連れ2組を一班に、それ以外の大人を二班に分けました。大町自然館観察園は、広い湿地の中に遊歩道が設置されていますが、道幅が狭いため一列歩行での観察となるので、一班当たりの一般参加者は5～7人という小人数にしました。

啓蟄を2日後に控えた時期でもあり、春の訪れを感じてもらうことをテーマにしました。開花した樹木や野草としては、ハンノキ、ウグイスカグラ、ミズバショウ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、フキノトウなど。セリ、クレソンなども水辺のあちこちに。芽が膨らんできた樹木としては、コブシ、イロハモミジ、イヌザクラ、イヌコリヤナギ、マユミ、ニワトコ（葉は出ました）など。コブシのふんわり花芽と葉芽を触ったり、イロハモミジやイヌザクラの鮮やかな冬芽を、目を凝らし眺めたりして、春の訪れを感じてもらいました。

動物では、成虫越冬のルリタテハやキタテハなどの蝶の飛翔や、アカガエルのオタマジャクシが見られました。たどたどしいウグイスのさえずりも。環境省レッドデータブックでは千葉県で「保護上重要な野生生物」Aランクのニホンアカガエルですが、2月上旬に産卵された卵塊から、数日前にかえったらしい小さなオタマを皆さん嬉しそうに見ていました。アカガエルは産卵後、再び冬眠するようで、「二度寝はやはり気持ちよいのかな？」の声も。

大町自然観察園は植物遷移が進みヨシやカサスゲが優勢になっていましたが、1973年開園当時の状態にできるだけ戻そうという取組みが昨年から始まっています。ヨシやカサスゲをかなり刈ったり、湿地に侵入しつつあった樹木を一部伐採したり、水路の天井川化を防ぐ措置をしたり。この結果として、小さな池や水たまりなど、全体的に湿地の状態が回復しています。こうした整備（行政・博物館+ボランティア）のおかげで、生き物観察でもまた新たな発見ができるのでは、と期待しています。これらの状況も参加者の皆さんと共有しました。



コブシの花芽を分解：厚着コートの不思議を確認



ルリタテハ キタテハ
フキノトウ オオイヌノ